

在ムンバイ日本国総領事館海外安全対策情報
令和元年度第1四半期（平成31年4月から令和元年6月）

1. 治安情勢

- 4月14日、ムンバイ市内のアーリーコロニー地区で深夜パトロール中の警察官がナイジェリア人を職務質問したところ、逃走したため追跡し制圧逮捕したもの。所持品からコカイン22グラムを押収した。
- 5月1日、インド西部マハラシュトラ州ガドチロリ地区でマオイストが仕掛けた爆発物により、車両放火事件で現場出向中の警察官15名と運転手1名が死亡した。（放火事件は、警察官をおびき寄せるためマオイストが故意に発生させたもの。）
- 6月24日、ロシア人2名がムンバイ市内バンドラ地区のATMにおいて、銀行顧客情報を盗むため、カードスキマーとカメラを設置、ATM利用客のカード情報を盗み、ATMカードを複製した。

2. 邦人に係る一般犯罪情勢

殺人・強盗等凶悪犯罪の事例

- ア 殺人
邦人被害の事件は認知していない。
- イ 強盗
邦人被害の事件は認知していない。
- ウ 強姦
邦人被害の事件は認知していない。

3. テロ・爆弾事件発生状況

- 6月18日、マハラシュトラ州ナビムンバイ・パンベル地区内の学校敷地の外に不審物が置かれた事案において、警察の捜査により爆発物であることが判明、安全に解体処理がなされたもの。現在も被疑者を捜査中。

4. 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人被害に係る誘拐・脅迫事件の発生はなし。

5. 対日感情

良好である。

6 犯罪発生状況

ムンバイ市警察本部は、2019年1月1日から5月31日までに認知した犯罪件数について統計を発表した。主な犯罪の認知件数は以下のとおり。

○ 殺人	63件	(前年同期対比)	±0件)
○ 強盗	401件	(同)	-13件)
○ 傷害	1,862件	(同)	-360件)
○ 恐喝	90件	(同)	-3件)
○ 強制性交等	401件	(同)	+42件)
○ 窃盗	2,271件	(同)	-418件)
○ チェーン・スナッチング (※)	64件	(同)	+12件)

※女性が首等に身につけている貴金属をひったくる犯罪

多くの罪種において、昨年比で犯罪認知件数が減少しているところ、女性を対象とした性犯罪等については依然として増加傾向にある。犯罪被害に遭わないためには、夜間等帰宅の際は、常に人気のあるところを移動、タクシー等を使用することを心掛けるなど注意が必要である。

インド国内各地において、ナイジェリア人の薬物の密売組織が暗躍している状況が見られ、当館管轄地域においても特にゴア州やムンバイにおいてナイジェリア人の薬物関連逮捕事案が多く発生している。

様々な場面で薬物へのアクセスが可能と見られ、警察も薬物事案に総力を挙げて対処し検挙件数を伸ばしつつある。違法薬物所持で逮捕されると10年以上の20年以下の懲役刑を科される可能性があることから、安易に違法薬物に手を出すことは厳に慎むべきである。

また、また、国際空港における密輸事案が大幅に増加しており、海外から金や薬物を持ち込む一般客が検挙されている。これらの者は海外の空港等において、見知らぬ者から荷物搬送を頼まれ、報酬を目当てに安易に引き受けるケースも多いことから、犯罪に巻き込まれないためには、見ず知らずの者の誘いには絶対に乗らないことが肝要である。

インド国内の観光地や夜間人が集まる様な飲食店等において、旅行者に対して友人を装い親しく声を掛けて来て、睡眠薬を混入した飲食物を提供し、旅券や貴重品等を窃取する昏睡強盗事件が多数発生している、

ガイドを名乗る者が外国人観光客に親しげに近づき、前記強盗を働き、また女性に対して性的暴行を働くケースも散見されていることから、見ず知らずの者と接する際には十分注意を払うことが重要である。